

## 鯖江市西山公園における 鳥類の生息時期と渡りの区分の問題点\*

大迫義人<sup>1</sup>・納村力<sup>2</sup>

### はじめに

渡りとは、繁殖地と越冬地との間を毎年定まった季節にくりかえし移動することであり、日本において、一地方にすむ鳥類は渡りからみて留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥・漂鳥・迷鳥に慣例的に分類される(岩波生物学辞典第3版 1983)。しかし、この定義では、対象となる鳥類の分類学的レベルと地方の範囲が規定されていないし、また、区分の基準が繁殖と越冬だけとは限らないので、混乱を招いている。さらに、断片的または短期間の調査結果を基に区分されていることにも問題がある。そこで、福井県鯖江市西山公園で年間280日をかけて詳しい調査を行ない、鳥類の渡り・移動と生息時期について明らかにし、渡りの区分の問題点について整理してみた。

### 調査地と方法

調査は、武生盆地の孤立丘陵一つである標高112.6mの長泉寺山の一角にある福井県鯖江市桜町の西山公園(35°57'N, 136°11'E)で行った。ここは、主にヒサカキ *Eurya japonica*、コナラ *Quercus serrata*、クヌギ *Q. acutissima*などで植生が構成されていた。また、1986~1994年の9年間の調査で、計13目30科95種の鳥類が記録されている(納村・大迫 1995)。

調査は、1992年1月~12月まで月平均23.3±3.8(SD)日の計280日かけて行なった。標高20~110mの丘陵地に延長約1,540mの調査ルートを設定し、日の出前後から約1時間かけて、約2km/hで歩き、片幅15m内に出現した鳥類の種と個体数を記録した。調査面積は計4.62haであった。

1992年には、計13目28科80種の鳥類が記録され、これらのうち計5目17科36種の鳥類が生息していると考えられている(納村・大迫 1995)。ここでは、記録されたすべての種を記録種とし、生息していると考えられる種を生息種とする。

### 結 果

---

\* 福井県自然保護センター研究業績 第44号

1. 〒912-01 福井県自然保護センター 福井県大野市南六呂師169-11-2

2. 〒916 鯖江市立鯖江東小学校 福井県鯖江市新横江2丁目6-37

## 出現時期と消出時期

記録種において、前月に比べ新たに記録された種の多かったのは、順に4月の18種、10月の15種、5月の13種であった。逆に、翌月には記録されなかった種の多かったのは、順に5月に19種、10月に14種、4月に13種であった(図1)。また、生息種においては、同様に、順に10月に7種、4月に5種、11月に4種が新たに出現し、4月に8種、10月に7種、5月に4種が消出した(図1)。そして、記録種、生息種ともに、1~3月と6~8月に出現、消出する種が少なかった。つまり、調査地においては、4~5月と10月が主な渡りや移動の時期で、1~3月と6~8月がそれぞれ越冬期と繁殖期であった。

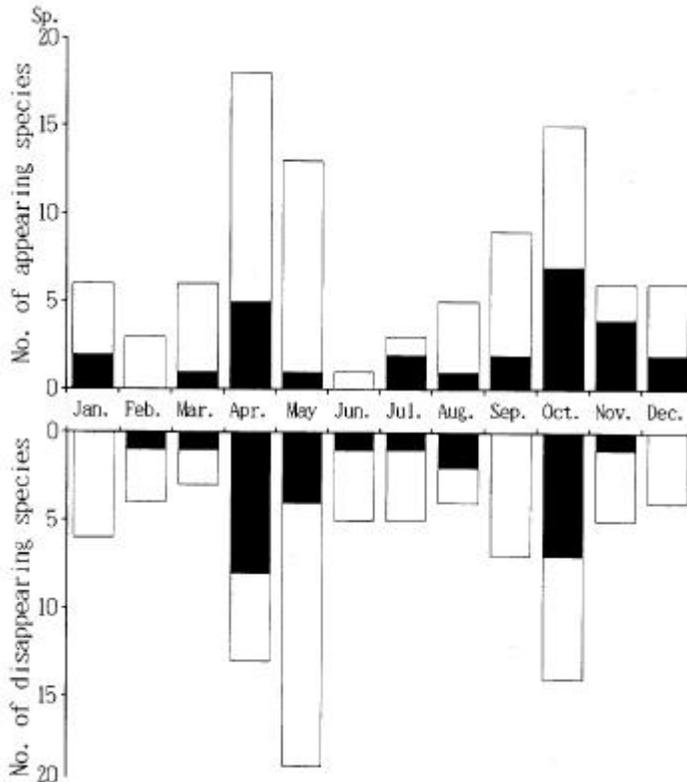


図1. 西山公園における出現・消出種数の季節変化。出現種数は当月に記録された種数で、消出種数は翌月に記録されなかった種数をさす。

：出現種の中の生息種

Fig. 1. Seasonal change in numbers of bird species appearing in and disappearing from Nishiyama Park. The former shows the species recorded newly in the month and the latter shows the ones not recorded in the next month.

：Inhabiting species of recorded birds.

## 生息時期

1. トビ *Milvus migrans*  
個体数は1～4羽と少なかったが、周年記録され、調査地での繁殖も確認された(図2-1)。
2. キジ *Phasianus colchicus*  
個体数は1～6羽と少なかったが、周年記録され、調査地での繁殖も確認された。しかし、1月、2月および8月から12月まで少なくなる傾向があった。(図2-2)。
3. キジバト *Streptopelia orientalis*  
個体数は1～6羽と少なかったが、12月を除いて周年、記録された(図2-3)。調査地での繁殖は確認されなかったが、その可能性はあった。
4. アオゲラ *Picus awokera*  
個体数は1～3羽と少なく、1月から4月までと9月から12月まで記録された(図2-4)。
5. アカゲラ *Dendrocopos major*  
アオゲラよりも個体数が少なかったが、1月から3月までと9月から12月まで記録された(図2-5)。
6. コゲラ *Dendrocopos kizuki*  
周年記録され、調査地での繁殖も確認されたが、8月に少なくなる傾向があった(図2-6)。
7. ツバメ *Hirundo rustica*  
初認日は3月25日で、4月中旬から10月中旬まで安定して記録され、終認日は10月19日であった(図2-7)。調査地での繁殖も確認された。
8. コシアカツバメ *Hirundo daurica*  
初認日は4月29日で、終認日は10月23日で、調査地での繁殖も確認された。ツバメに比べると記録個体数が少なかったが(図2-8)、10月5日に、南下している最大の20羽の群れが記録された。
9. セグロセキレイ *Motacilla grandis*  
個体数は1～5羽と少なかったが、周年記録された(図2-9)。調査地での繁殖も確認されたが、採食場所としては、あまり利用されていないかった。
10. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*  
周年、安定して記録され、調査地での繁殖も確認された(図2-10)。5月に最大90羽、10月に最大421羽が記録される日があった。それらのほとんどは、群として上空を通過した。
11. モズ *Lanius bucephalus*  
個体数は1～6羽と少なく、主に1月から5月までと9月から12月までに記録された。調査地での繁殖は確認されたが、それ以後、9月中旬頃までほとんど記録されなかった(図2-11)。
12. ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*  
初認日は11月17日、終認日は3月28日で、記録されても個体数は1、2羽と少なかった(図2-12)。
13. ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*  
初認日は10月13日、終認日は4月12日で、記録されても個体数は1羽～3羽と少なかった

( 図2-13 ) .

14. シロハラ *Turdus pallidus*

初認日は10月21日，終認日は5月2日で，主に1月から4月までよく記録された ( 図2-14 ) .

15. ツグミ *Turdus naumanni*

初認日は10月22日，終認日は5月10日で，主に1月，11月，12月に記録された．2月に少なくなる傾向があった ( 図2-15 ) .

16. ヤブサメ *Cettia squameiceps*

初認日は4月19日，終認日は10月11日で，主に5月から7月まで記録され，8月に少なくなった ( 図2-16 ) . 調査地での繁殖は確認された .

17. ウグイス *Cettia diphone*

1月から6月までと10月から12月までは安定して記録され，7月から9月まではほとんど記録されなかった ( 図2-17 )

18. キビタキ *Ficedula narcissina*

初認日は4月21日，終認日は10月21日で，調査地での繁殖も確認された．主に5月から7月に記録されたが，8月以降，少なくなる傾向があった ( 図2-18 ) .

19. コサメビタキ *Muscicapa latirostris*

初認日は5月4日，終認日は10月19日で，調査地での繁殖も確認された．しかし，主に5月および9月，10月に記録され，個体数は1～5羽と少なかった ( 図2-19 ) .

20. エナガ *Aegithalos caudatus*

ほぼ周年，記録され，調査地での繁殖も確認されたが，8月から9月中旬にはほとんど記録されなかった ( 図2-20 ) .

21. ヒガラ *Parus ater*

初認日は10月18日，終認日は4月20日で，記録個体数は1，2羽で少なかった． ( 図2-21 ) .

22. ヤマガラ *Parus varius*

周年，安定して記録され，調査地での繁殖も確認されたが，8月に少なくなる傾向があった ( 図2-22 ) .

23. シジュウカラ *Parus major*

周年，安定して記録され，調査地での繁殖も確認されたが，ヤマガラ同様，8月に少なくなる傾向があった．ヤマガラよりも生息密度は高かった ( 図2-23 ) .

24. メジロ *Zosterops japonica*

周年，記録されたが，1月から3月まで少なくなる傾向があった ( 図2-24 ) . 調査地での繁殖は確認されなかったが，その可能性があった .

25. ホオジロ *Emberiza cioides*

周年，記録され，調査地での繁殖も確認されたが，1月から2月までと9月から10月まで少なくなる傾向があった ( 図2-25 ) .

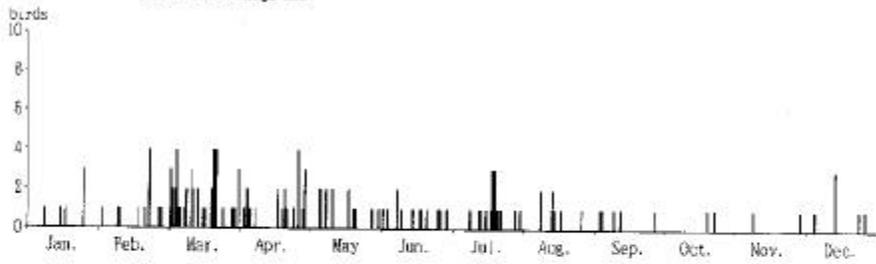
26. カシラダカ *Emberiza rustica*

初認日は11月18日，終認日は4月7日で，記録個体数・日数も少なく不安定であった ( 図2-26 ) .

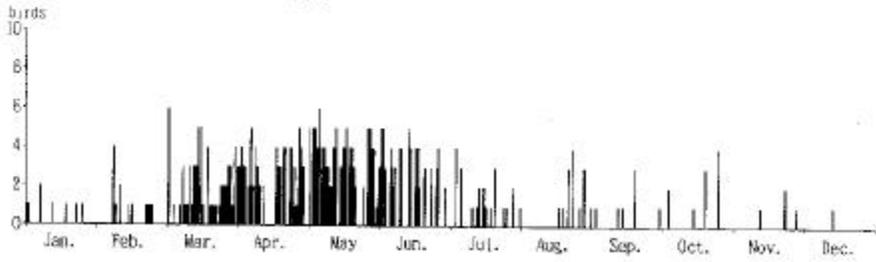
27. アオジ *Emberiza spodocephala*

初認日は11月3日，終認日は4月26日であったが，1月と11月から12月まではほとんど

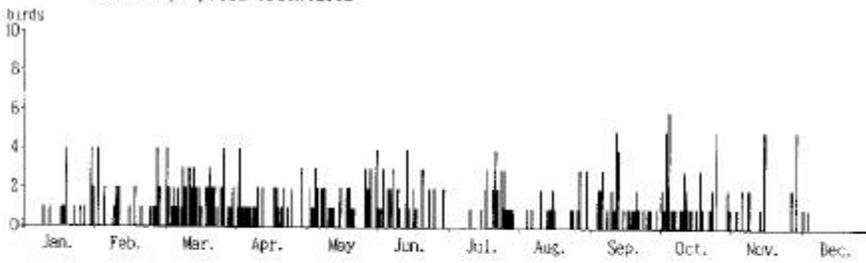
1. *Milvus nigans*



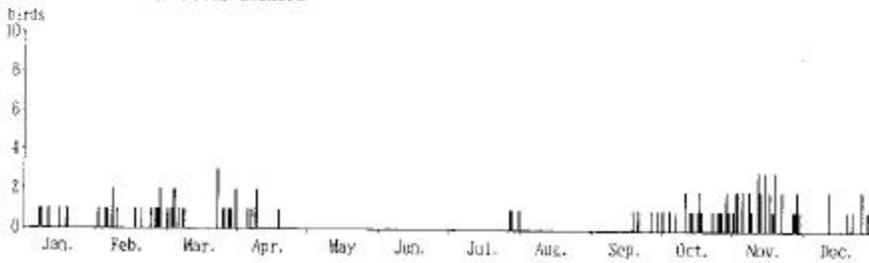
2. *Phasianus colchicus*



3. *Streptopelia orientalis*



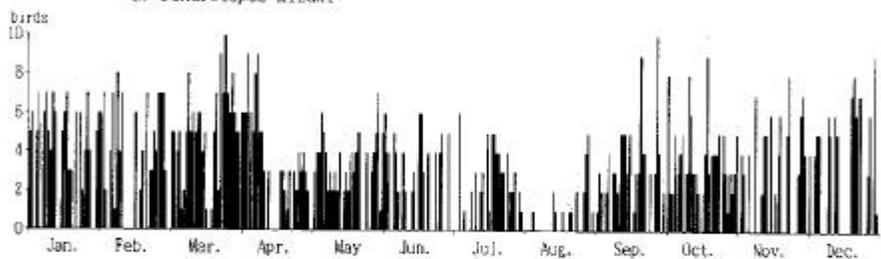
4. *Picus awokera*



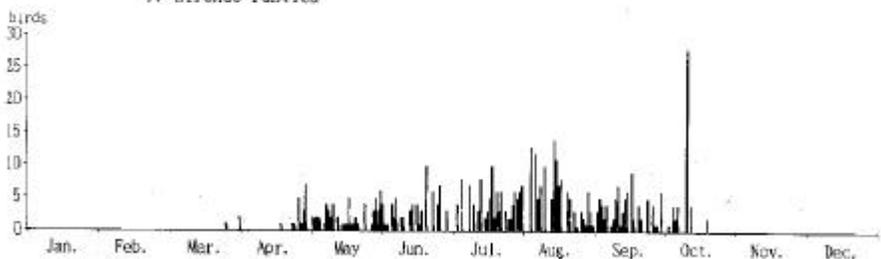
5. *Dendrocopos major*



6. *Dendrocopos kizuki*



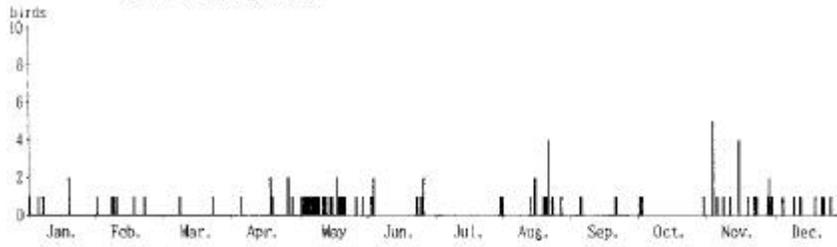
7. *Hirundo rustica*



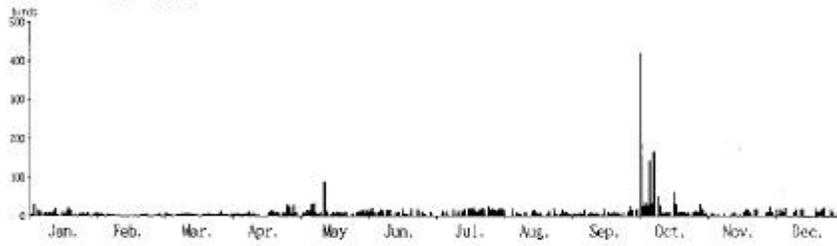
8. *Hirundo daurica*



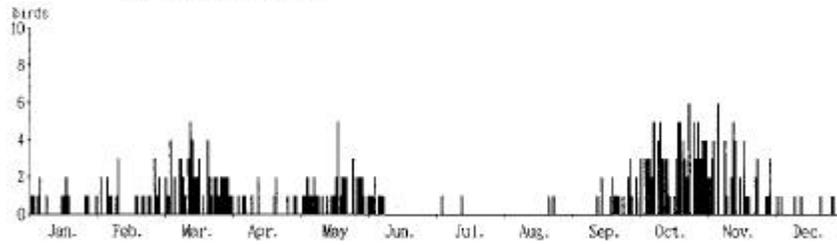
9. *Motacilla grandis*



10. *Hypsipetes amurotis*



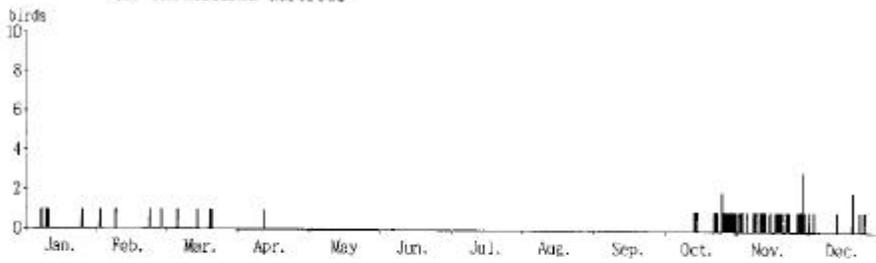
11. *Lanius bucephalus*



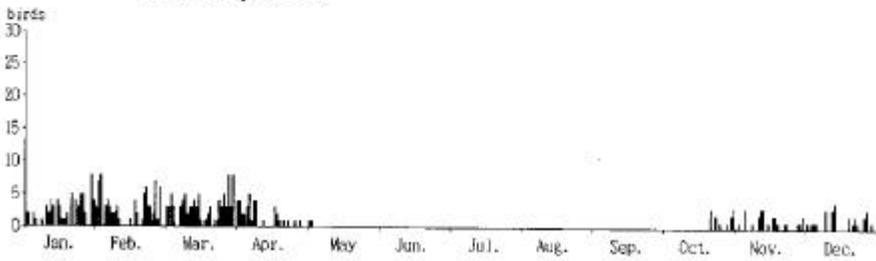
12. *Tarsiger cyanurus*



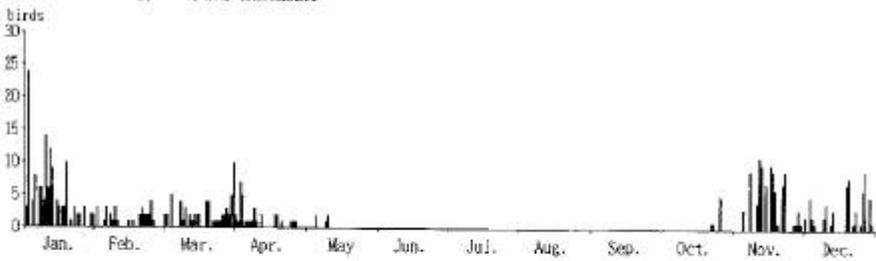
13. *Phoenicurus aureus*



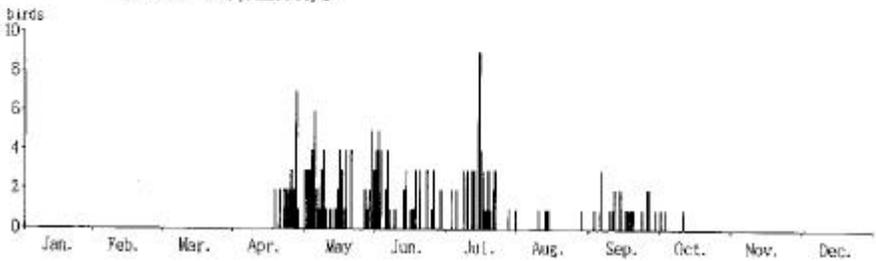
14. *Turdus pallidus*



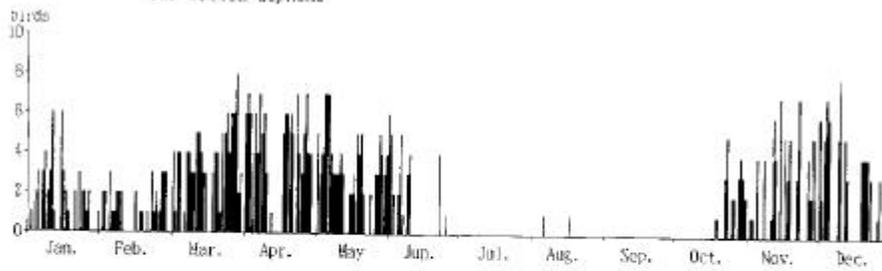
15. *Turdus naumanni*



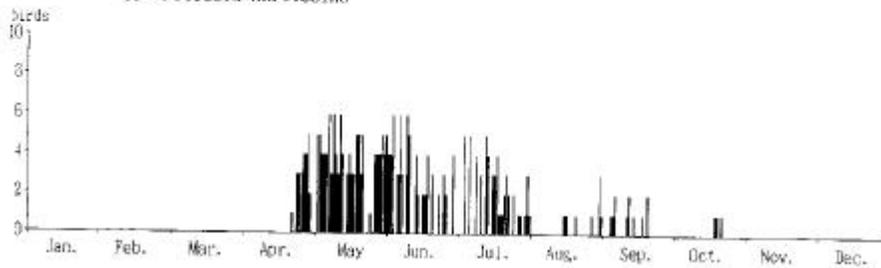
16. *Cettia squameiceps*



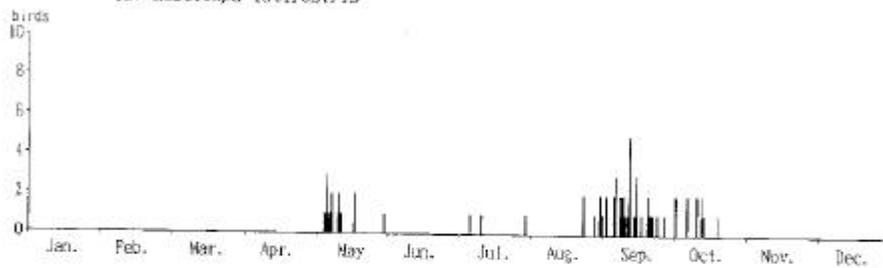
17. *Cettia diphone*



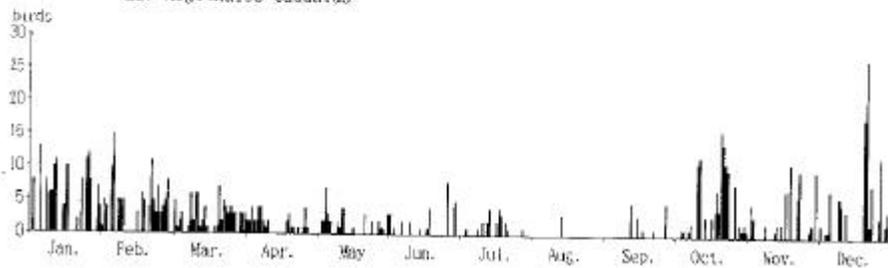
18. *Ficedula nareissina*



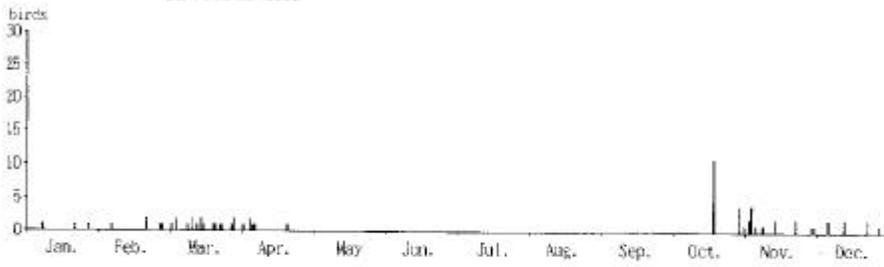
19. *Muscicapa latirostris*



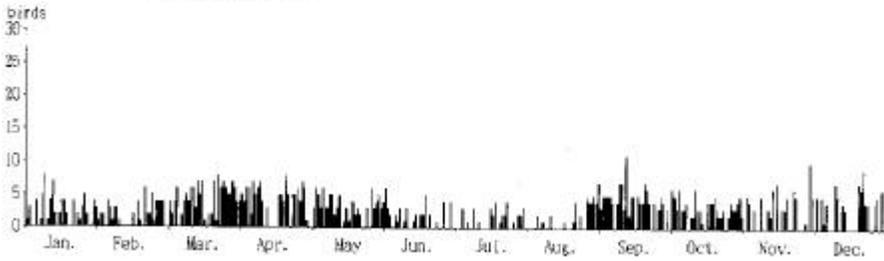
20. *Aegithalos caedatus*



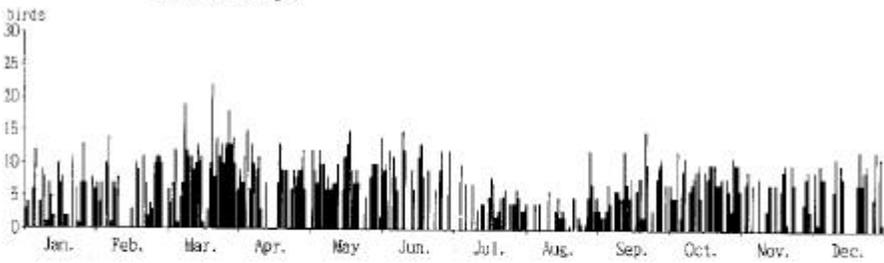
21. *Parus ater*



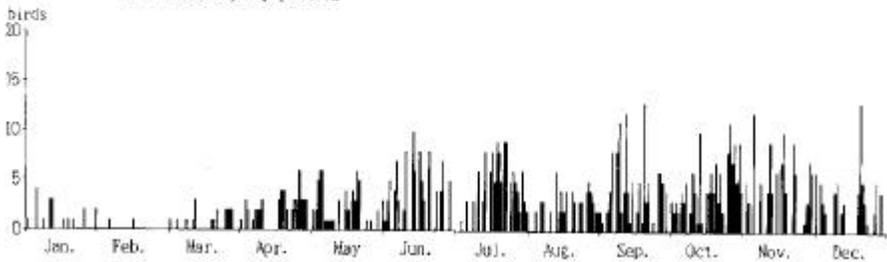
22. *Parus varius*



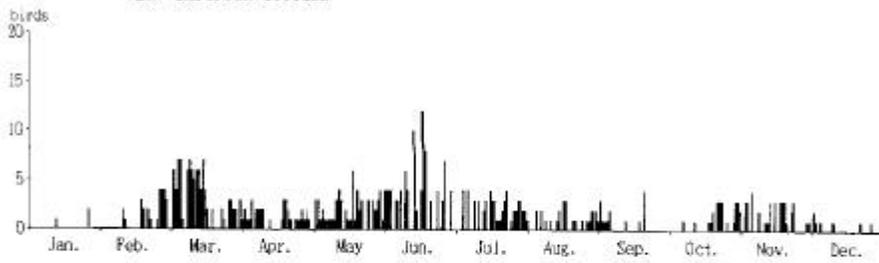
23. *Parus major*



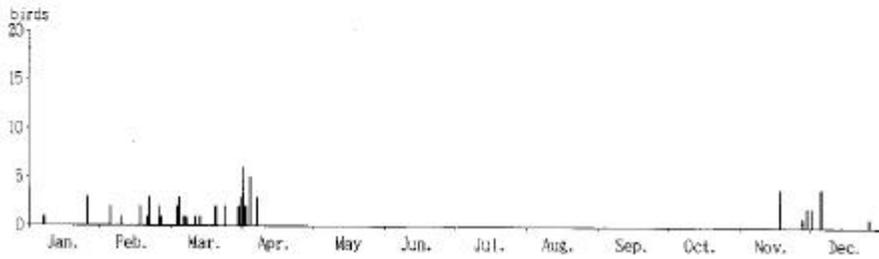
24. *Zosterops japonica*



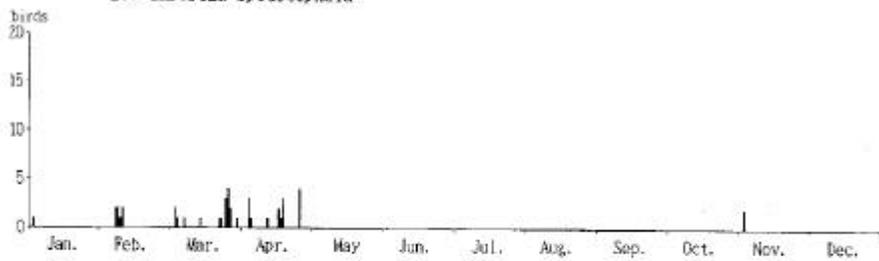
25. *Emberiza citoides*



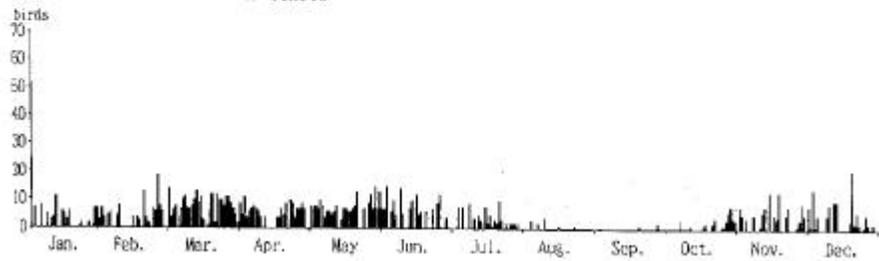
26. *Emberiza rustica*



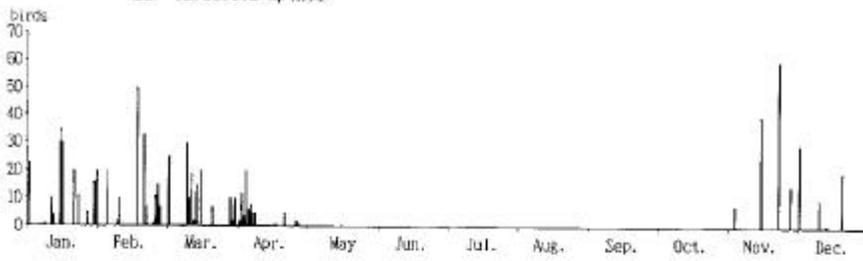
27. *Emberiza spodocephala*



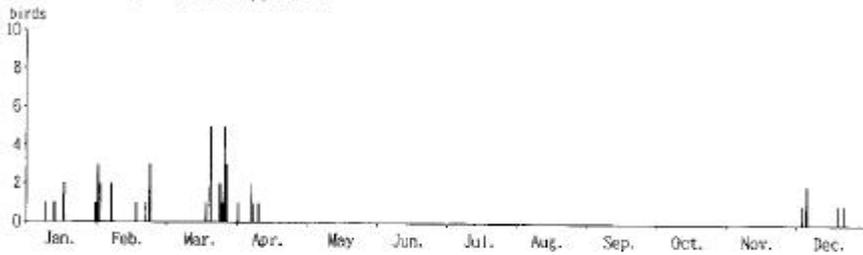
28. *Carduelis sinica*



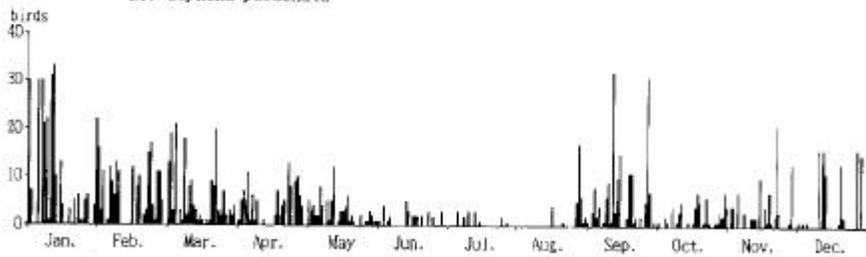
29. *Carduelis spinus*



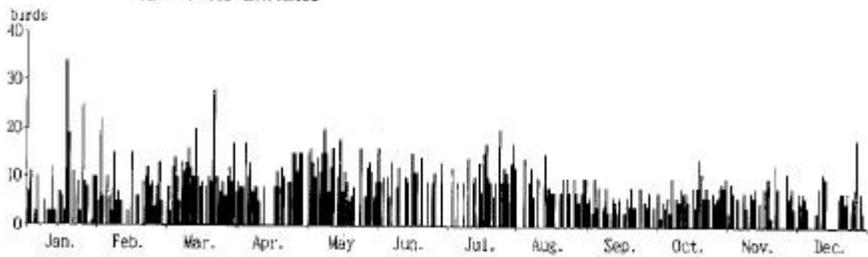
30. *Pyrrhula pyrrhula*



31. *Eophona personata*



32. *Passer montanus*



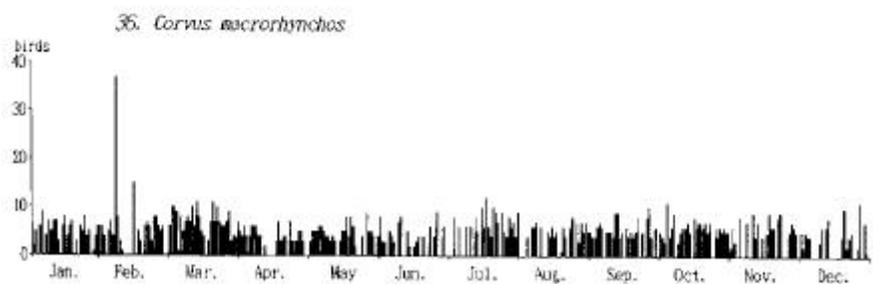
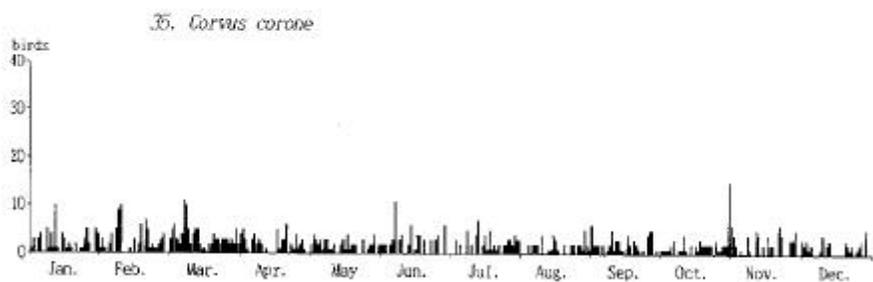
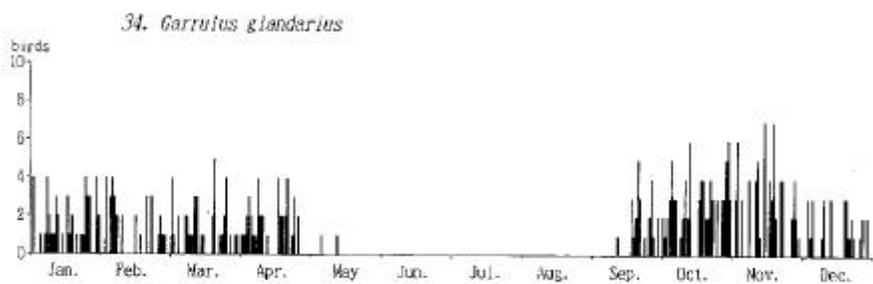
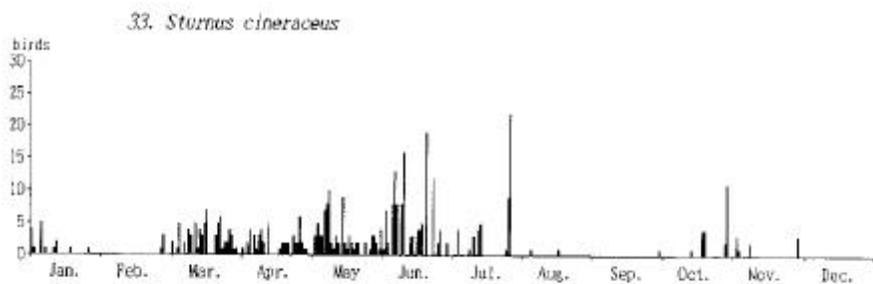


図2. 各種鳥類の生息時期.

Fig. 2. Inhabiting seasons of each bird species.

記録されず、3月から4月までよく記録された（図2-27）。

28. カワラヒワ *Carduelis sinica*

ほぼ周年、記録され、調査地での繁殖も確認されたが、繁殖終了後の8月から9月までほとんど記録されなかった（図2-28）。

29. マヒワ *Carduelis spinus*

初認日は11月3日、終認日は4月27日で、10～60羽の群れで記録されることが多かった（図2-29）。

30. ウソ *Pyrrhula pyrrhula*

初認日は12月3日で、終認日は4月10日で、記録個体数・日数とも不安定であった（図2-30）。

31. イカル *Eophona personata*

周年、記録され、調査地での繁殖も確認されたが、6月から8月まで少なくなる傾向があった（図2-31）。

32. スズメ *Passer montanus*

個体数も多く、周年、記録され、繁殖も確認された（図2-32）。

33. ムクドリ *Sturnus cineraceus*

3月から7月までよく記録され、調査地での繁殖は確認されたが、それ以外の時期は少なかった（図2-33）。

34. カケス *Garrulus glandarius*

1月から4月までと9月から12月まで記録され、個体数は1～7羽と少なかった（図2-34）。

35. ハシボソガラス *Corvus corone*

周年、記録され、調査地での繁殖も確認された。記録個体数は最大15羽で多くはなかった（図2-35）。

36. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

調査地での繁殖は確認されなかったが、周年、記録された。ハシボソガラスより生息密度は高かった（図2-36）。

## 考 察

### 渡りの区分の問題点

たとえばヒヨドリの場合、西山公園では、周年、記録されたので、種としては留鳥となるが、春期と秋期には明らかに移動している群れが観察されたので旅鳥も存在している（図2-10）。また、ツバメ、コシアカツバメ、ヤブサメ、キビタキなどの場合、繁殖期以外にも記録個体数の山があったことより、繁殖個体群とは別に渡りで通過する個体も存在している（図2-7, 8, 16, 18）。このように、従来の渡りの区分では、種をその対家としているが、個体群または個体としては他に区分されることもある（山階鳥類研究所標識研究室 1985）。

次に、たとえばウグイスの場合、日本という地方では周年、どこかで観察されるので留鳥であるが（高野1992）、福井県では山地から亜高山帯で繁殖し、平地で越冬するので漂鳥であり（福井県1982）、西山公園では夏期にいなくなったので冬鳥である（図2-17）。こ

のように、同じ鳥種でも地方の範囲のとりかたで渡りの区分が異なってくるので、拡大解釈されるような区分は控えたほうがよい。この際、漂鳥とは一地方内で越冬地と繁殖地とを異にし、その間で小規模の季節移動をする渡り鳥をいうので（岩波生物学辞典第3版 1983）、調査地が狭いと漂鳥は存在しないことも留意すべきである。

そして、繁殖も越冬も確認されているのに、モズ、エナガ、イカルのように7月から8月まで記録されない種が少なからず存在していた（図2）。これらの種は、この時期に標高 346～1,625mの山地で記録されていることより（福井県自然保護センター 1995a, 1995b, 1996）、暑さを避けて移動したのと考えられる。従来の渡りの区分は、繁殖と越冬をその基準としているが、種によっては避暑も生活の重要な一部となっているので考慮すべきであろう。

もし、冬期（1月）、春期（4月）、夏期（7月）、秋期（10月）の4時期に調査を行なった場合、アオゲラ、モズ、エナガ、カワラヒワ、ムクドリは、5月、6月、8月または9月に生息していないのに、すべての時期に記録されるので留鳥に区分されてしまう（図2）。つまり、不十分な調査頻度・期間での調査結果から渡りを区分することは、実際の生息時期と合わない場合があるので控えたほうがよい。

結局、留鳥、夏鳥、冬鳥などの渡りの区分は、便宜的に必要なものではあるものの、多くの混乱をまねくので、長期間の調査をもとに観察された時期だけを記載するほうがよいであろう。

## 謝 辞

記録の整理を福井県自然保護センターの前田四郎氏と鳥類標識協会会員の三原学氏に手伝っていただき、また、立教大学の土田恵介氏には内容について適切な指摘をしていただいた。ここに記して感謝する。

## 要 約

福井県鯖江市の西山公園において、1992年1月から12月までの計280日をかけて、鳥類の渡りと生息時期について調査を行ない、渡りの分類の問題点について整理した。調査地では、記録種、生息種とも、4月と10月が主な渡り・移動の時期であった。ヒヨドリのように、種としては留鳥となるが、個体群または個体としては旅鳥も存在していた。また、ウグイスのように、地方の範囲のとりかたで渡りの区分が異なっていた。そして、モズ、エナガ、イカルのように、繁殖も越冬も確認されているのに、おそらく避暑のために7月から8月まで記録されない種が存在していた。さらに、調査頻度・期間が不十分であると渡りの区分が不正確な場合があった。渡りの区分は、便宜的に必要なものではあるものの、多くの混乱をまねくので、長期間の調査をもとに観察された時期だけを記載するほうがよいであろう。

## 引用文献

- 福井県．1982．福井県の鳥獣．240pp．福井県．  
福井県自然保護センター．1995a．渡り鳥保全調査報告1992年度 - 鳥獣保護区の鳥類相 - ．  
Ciconia4 : 1-8 ．  
福井県自然保護センター．1995b．渡り鳥保全調査報告1993年度 - 鳥獣保護区の鳥類相 - ．  
Ciconia4 : 9 - 16 ．  
福井県自然保護センター．1996．渡り鳥保全調査報告1994年度 - 鳥獣保護区の鳥類相 - ．  
Ciconia5 : 1 - 7 ．  
納村力・大迫義人．1995．鯖江市西山公園における鳥類相とその季節変化・Ciconia  
4 : 17 - 23 ．  
高野伸二．1992．フィールドガイド日本の野鳥 - 増補版 - ．日本野鳥の会，東京．  
山階鳥類研究所標識研究室．1985．日本の鳥類標識調査（昭和36年～昭和58年）．山階鳥  
類研究所，千葉．

Inhabiting season of birds at Nishiyama Park , Sabae City  
and some problems in classifying migration pattern

Yoshito Ohsako<sup>1</sup> and Tsutomu Osamura<sup>2</sup>

Inhabiting season of birds was studied at Nishiyama Park , Sabae City , Fukui in 1992 , and some problems in classifying the migration pattern were discussed . The migration season was in April in spring and October in autumn at the park . Some species , such as Brown-eared Bulbuls were classified into resident bird as species but into transient bird as population or individual . Some species , Such as Bush Warblers were classified into different migration pattern according to the size of the study area . Some species such as Bull-headed Shrikes , Long-tailed Tits , Masked Hawfinches disappeared from July to August although they bred and wintered in the study area . An insufficient study in frequency and duration might mislead the migration pattern . It is more important to describe the inhabiting season or birds than to classify the migration pattern .

- 1 . Fukui Nature Conservation Center . Minamirokuroshi 169 - 11 - 2 , Ono - Shi , Fukui 912 - 01
- 2 . Sabae - higashi Elementary School . Shin-yokoe 2-6-37 , Sabae-shi , Fukui 916